

## 334 中央大学学生の三先生招待会

〔法学新報〕第23巻4(263)号 大正2年4月1日

○中央大学学生の三先生招待会 鳥歌ひ花笑ふ彌生十六日中央大学、中央高等予備校の学生相合し曩に台閣に列せられたる奥田、元田、岡野の三先生を招待し其御榮任に対する欣賀の微意を表せん為め其日午後一時より中央大学大講堂に於て聯合学生大会を催す当日来会する者来賓側に岡村新学長、土方、富井、花井、大場の諸博士を始め其他本学関係者百有余名学生又挙て

出席し為めにさしもに広き講堂も定刻前既に立錐の余地なく溢れて戸外に立つ者幾何なるを知らず以て如何に其盛会なりしかを推知するを得む今今日の景況の概要を掲げんに学生の開会の辞に次て学生総代の祝辞朗読あり之に対し元田通相は諸君の熱誠なる招待を謝し尚ほ励精努力以て今日の款待に背かざらん事を期すと簡単に述へられ奥田文相は曩に余か先輩を措きて学長に就任したるは不本意に堪へざる所なりしも此度偶然の事故により学長を辞し当初の希望なりし岡村老博士を学長に迎ふるを得たるは本学の為め又諸君の為めに幸福なる所なり余の今や創立以来殆と三十年間関係せる本学を去るは情に於て誠に忍びざるものあり左れと我精神は決して本学を去るものにあらず今後尚ほ直接間接尽す所あるへしと述へられ鬢を思ふの切なる情言言句句の間に現はれ聴衆の肺肝を突くものあり最後に本日招待は余の衷心汗顔に堪えへざるものなりと謙遜の辞至らざるなく先生の人格其間に躍如たるものあり花井博士は吾人の学ふは単に学問の為めに学ふにあらず他日国家社会に裨益する所あらんか為めに学ふものなり此意味に於て三先生の今回台閣に列せられたるは男子の本領を發揮したるものにあらずして何そや是れ余か特に本学学員として又後輩として三先生の榮任を祝するものなりと結はれト喜太郎氏は同く慶賀の意を表し次て現今活社会に在る人材は漸く頽齡に傾かんとしつつあり今や春秋に富む諸君は奮励一番以て先輩の後を継かざるへからすと激励せられ終りに岡村新学長は学長就任の挨拶と共に閉会の辞を宣せられ其終るや直ちに模擬店開始せらる「フロック」姿の来賓諸

賢と三千余の小倉袴の学生と互に入り乱れて各自嗜好を求むる様一壯觀と謂つへし宴將に酣にして庭の一隅に鯨波の声起る乃ち觀みれば奥田文相冲天に舞ふ是れそ胴上別働隊の行動を開始したるなり先つ之に勢を得たる彼等は續て元田通相、花井、大場兩博士、佐藤幹事と順次何れも功を奏して引上く斯くて主客十二分の歡を尽したる後学生有志演説会、太神樂、浪花節、講談、薩摩琵琶等の余興ありて一層の興を加へ一同散会したるは午後八時なりし因に岡野先生は校務の爲め御光臨を忝うするを得さりしは返へす返すも遺憾なり又伊藤先生は特に會長として終始指揮の任に當られたるは学生一同の深く感謝する所なり

(委員報)